

みょうこうケアフォーラム通信

平成30年度 第2回 みょうこうケアフォーラムを開催しました！

- 日時：平成30年11月8日（木）18時30分から20時00分
- 会場：新井ふれあい会館 ふれあいホール
- 参加者：75名（介護ネットワーク事業所、医療機関、薬局、福祉用具事業所等）
- 内容：事例紹介
 - ①在宅での看取り事例：ケアセンタースマイル 池田千恵さん
 - ②施設での看取り事例：特別養護老人ホーム妙高縁 棚村佳典さん



司会は実行委員会の保坂さん

平成28年度より「日常を支える意思決定支援」について、私たちができることは何か、みんなで話し合い、少しずつ取り組んできましたが、今年度は、『人生の最終段階における意思決定支援』として、看取りをテーマに、引き続き「意思決定を支援すること」に取り組んでいます。



実行委員会の武藤さんから、これまでの取り組みについて紹介していただきました。

『看取り～人生の最終段階における意思決定支援～』

第2回では、事例紹介とグループワークを行いました。

在宅や施設など、いろいろな所で看取りが行われ始めていますが、さまざまな思いを抱えながら支援している現状があります。一つ一つの事例で経過や病気の進み具合、身体面・精神面・生活面への影響も異なる中で、また、本人・家族の意思・意向も状態・状況の変化に応じて変わっていく中で、どう寄り添い、支援して行くのか、思いを共有し、みんなで考えました。

事例紹介

「Aさんの看取り支援に携わって」 ケアセンタースマイル 池田千恵さん

癌の進行による病状の悪化から、治療をやめ家に帰ることを希望した、Aさんとの24日間の関わりを通して、意思決定支援について振り返りました。

- めまぐるしく変化する状態に合わせて支援体制の変更を行う、駆け足の支援だった。
- 相談する近親者がいない状況の中、キーパーソンである妻は、助言の一つひとつに大きく左右されてしまう傾向にあり、言葉の重みを感じながらの対応だった。
- 妻の意向を常に意識しながら関わってきたが、気持ちを正しくくみ取れたのか、本音を引き出すことができたのか、不安が残る。

「悔いのない選択を支えるために」 特別養護老人ホーム妙高縁 棚村佳典さん

癌の再発から施設での看取り介護に至った、Mさんとの入所から3年間の関わりを通して、意思決定支援について振り返りました。

- 会話を重ねる中で、本人だけでなく、家族の「ものがたり」を共有することで、家族がこれまで頑なに施設での看取りを拒んできた理由を理解することができた。
- 施設内ではあまり話が進まない場合でも、場所を変えると会話内容が変わり、本音を引き出すことができることがある。
- 今後は、本人を含めたカンファレンスの際に、看取りについての意向確認ができるようにしていきたい。



看取り～人生の最終段階における意思決定支援において大切だと思うこと

■ フォロー体制の調整

→安心して過ごすために、状態変化時・緊急時の支援体制を確保しておく。

■ 関係者・関係機関との連携

→状態が変化しやすい看取りの段階においては、より情報共有を密にして連携を図る。

■ 本人・家族との信頼関係の構築

→本人だけでなく、家族も含めて、これまでの「ものがたり」を理解することが大切。めまぐるしく変化する状況の中で、関係性をつくっていくことが難しい場面もあるが、本人・家族の立場に立って考えていく。

■ 状態予測を含めた十分な状況説明

→状況を正しく理解できるように、状況の変化に応じて繰り返し話をしていく。必要に応じて、医師へ病状説明をお願いする。

■ 後悔しない選択ができるよう全力でサポート

→契約時のキーパーソンと看取り時のキーパーソンが変わる可能性もあり、現実を受け止めきれない家族もいる。「決められない」「分からない」も家族の意向であり、結論を急がず、時に一緒に悩むことも大切。



～ グループワーク・アンケートから ～

- じっくり関わらないと見えてこないこともあるため、信頼関係を築いていき、節目節目で話しあうことが大切。
- 本人・家族の気持ちを常に意識し、大切にしていく。
- どうやって本人・家族から信頼を得ていくかが大事であり、難しいことでもある。
- その人の人生の「ものがたり」を踏まえ、その上で、どうしたいかを確認するように努めることが大切。人生全体を振り返りながら、話を引き出していく。
- 意思決定の結論を急がず、本人や家族が揺らいでいる時間も大切にしていきたい。
- 寄り添うこと、決めつけないことを大切にしたい。
- 看取りの段階では、本人・家族の意向が揺れ、変化するが、場面場面で本音を引き出す努力をすること、粘り強く向き合うことが大切と感じた。
- キーパーソンの負担も考えながら支援していくことが大切で、今後は、家族支援がとても重要になってくると感じた。
- その人の人生の最期を支援するという大切な役割を担っていることを改めて感じた。



2人とも、常に、ご本人やご家族の立場に立って、粘り強く、時間をかけて、いろいろなことを考えながら、良い方向に持っていこうと努力していた。

「看取り～人生の最終段階における意思決定支援～」について、日常の意思決定支援から始まり、今日に至っているが、「看取り」の場面だけとらえてしまうとハードルが高く、何をしたら良いのか分からないと感じることがあると思う。しかし、これまでを振り返り、「ものがたり」をご本人・ご家族といかに共有できるかが大事であり、これまでの「ものがたり」を共有してはじめて、これから先のことを一緒に考えていく関係性をつくることのできるのではないかと感じた。今日感じたことを忘れずにいて欲しい。

まとめは実行委員会の揚石先生



今年度もみょうこうケアフォーラムは、年3回を予定しています。第3回の詳細は、後日改めてご案内します。